

## ハンガリーのお笑い芸人ナジ・バンドー・アンドラーシュ

## その8 爆発テレビ、カラー・スター

今回の「爆発テレビ、カラー・スター」は「ラジオ・キャバレー1987年傑作選」に収録された作品、第6回で紹介した「病院からの手紙」はB面に、この「カラー・スター」はA面に入っていた。わかった限りでだがこのネタの背景を説明しておく、このカラー・スターというのはハンガリー最初のカラーテレビで、ビデオトーン社という会社が製造していた。この会社は戦後ソ連の技術供与を受けてラジオやテレビ、後にはコンピューターをはじめ様々な家電製品を製造して今に至っている。1980年代の後半にこのテレビが発火して火事となる事故が多発、とりわけ1986年の大晦日にこの事故がもとで起きた火災にはお笑い芸人たちが喰いつき、たくさんのネタが生まれた。そのせいでこのテレビは「爆発するテレビ」として名を残すことになる。実際はテレビは爆発したのではなくて、火を噴いて燃焼したのだが、原因は一時的に西独から調達したコンデンサーの材質が粗悪だったとか、構造的に欠陥があったとか、いろいろ言われている。訳者としてはこの「ナジ・バンドーが火災の起きた家の住人を救助した～云々」というのが、事実なのかネタの一部なのか確かめなかったのだが、27年も昔のこととて調べるのが出来なかったのが残念。ナジ・バンドーによればつつこみどころ満載だったという、ビデオトーン社側の会見も興味深々だったのだが、これも何もヒットせず。

前半の解説で「このテレビについてはすでに「担当者同志」でとりあげられていた」と述べられているのは、俳優で映画監督のホルタイ・ローベルトが出ている人気シリーズ・ネタのことで、年間のラジオ・キャバレー傑作選には必ず入っている。そのときそのとき話題になっている問題について客席の誰かが質問すると、「その問題は私の担当です」という政府官庁の担当者（あるいは広報係り？）に扮したホルタイが答える。その答えがまたにべもない、というかとりつくしまもない内容で、質問者がくいさがると逆ギレし、最後には全然別の問題にすりかえられてしまうというパターンをたどるネタである。ちなみに共産党政権の時代のことゆえ、みな「～さん」とは呼ばず「～同志」と呼び合っている。ナジ・バンドーの火事救出劇の真偽のほどは確かめられなかったが、幸いホルタイのこのカラー・スターをとりあげたネタは「You Tube」で聞くことが出来た。当時の「ラジオ・キャバレー」の監督だったヴェレベシュ・イシュトヴァーンがカラー・スターの爆発のことをたずねると、「一台だって爆発なんかしてない」と言い張ったあげく、実際にカラー・スターの燃焼のせいで家が火事になったという証人が登場すると、「あなた、その火事が

起きたとき TV のある部屋にいたんですか？」とたずね、いや台所に行っていましたという答えがもどってくると、「じゃ、本当に TV が原因で起きた火事かどうかわからないでしょ」と一蹴し、「家族の中で誰か怪我しましたか？」と聞いて、みんな無事でしたと言われると、「じゃ、なんの文句があるんですか」とかみつく。「このような周囲の環境を危険にさらす装置について」とたずねられると、「その環境から退去なさい」でしめた。

実を言うと、あの頃ハンガリーで火をふいていたのはテレビだけではない。当時ブダペストに滞在していた日本人の知人の奥さんが、「掃除機が火をふいた！」と言っていたのを記者ははっきりと記憶している。でも日本製品だってちよくちよく事故を起こすのだから、鬼の首をとったみたいによその国のことを書くものではない。それではスタート！

## カラー・スター

ナジ・バンドー・アンドラーシュ

**解説者：**おそらくみなさんはまだ1987年の最初の数時間の光景を覚えておいでと思います。半ば燃えてしまったマーチャーシュフェルド(註 16 区)の家に立ち、すすり泣く女性をかばう、洪水の船乗りナジ・バンドー(註 1838年3月ドナウ川の雪解け水の増水によっておきた洪水で、ベスト側は大きな被害を被った。このときヴェッシェレーニ・ミクローシュ男爵は自身小舟に乗って水に取り囲まれて立ち往生している人々を救助してまわり、洪水の船乗りと譏えられた)、彼女のTVは爆発してしまったのです。この劇的な一連の映像はビデオトーン社には五億フォリントと高くつきました、この爆発するTVをこれ以上見ることは出来なかったからです。われらがナジ・バンドーが本心から喜んでいる間、われわれラジオ・キャバレー陣はうわべでしか喜ばませんでした。事態を動かしたのはお笑いではなく、やはり劇的な一連の映像の方だったのです、これに先だつ半年の間「担当者同志」はまさにこの「カラー・スター」事件にがつつり取り組んでいたのです。二、三日の間われわれの電話はガンガン鳴り、その後は何もありませんでした。われわれは自分たちのジャンルの限界を、ペーテルディ・パール(註 1924-2000 ハンガリーの水泳・水球の選手を経てスポーツ・トレーナー、スポーツ記者となつたが、多才な人でお笑いの寸劇の放送作家としても活躍し、ラジオ・キャバレーにもしばしば登場した)の黄金の真実(ネット上の偉人・哲人の名言集でペーテルディの「ユーモア感覚のないやつは、何でも出来る」というのを見つけた。しかしこれがナジ・バンドーのことなら、ユーモア感覚の分野では練達の士であるナジ・バンドーに対していささか不当な気がする)に気づかざるを得ませんでした、かのキャバレー・スキャンダルは象の交尾のようなもので、最初はもうもうたるほこりをかきたて、その後は何も起きなかったのです。

何はともあれ、事件の後の勝軍の将たるナジ・バンドーに語ってもらいましょう。

—新年のころのあなたはひどく怒っていましたね。

ナジ・バンドー：実際人間ひどく怒ると、その後で少しばかりお笑いの言葉に変換してみよう、他の言い方で言おうと試みるのです。そして私も元旦にビデオトーン社社長の会見を見ましたが、やってる間大笑いされたあれです、あの中には番組に取り上げたものが潤沢に含まれていました。こういう話でした、あの装置をビデオトーン社はオルケーニの戯曲「トート・ファミリー」の中にでてくる箱詰めのようにして作っただけだったのです、すなわち指示は KGB が出し、後でソ連がそれから組み立てたという話でした、そして誰もがブーイングしました、あのテレビは別に軍事機密ではなかったのです。あのテレビには「ソ連とハンガリーの協力によって生産された」と書いてありますが、ぶっちゃけそれは「核抑止力」みたいなもので、違う次元の話にすりかえただけなのです。誰もそのせいで爆発したとは信じませんでした、数週間前に新聞が報道した写真つきの特集記事で、取り付けられた西側の部品のせいで爆発したとわかっていただけからです。ぶっちゃけ内輪もめでした、われわれもブーイングしましたし、外に出て笑ったのです。新聞が伝えた典型的なハンガリーの統計も気に入りました、52台のTVが爆発しましたが、うち49台はビデオトーン社のカラー・スター、二台はオリオン(註 ハンガリーの別メーカー)、これはとても少数です、そして一台のグルンディッヒ(註 当時の西独の電気メーカー)。なんというか、感情的には左寄りのグルンディッヒです(註 当時の社会主義陣営では、左翼・右翼が日本とは逆)。そして新聞が後になってから書いたことも気に入りました、いいですか、この装置には前から問題があったのだけれど、現在も小さな問題がある、そして例えば交換するとか、代わりにいくらかの補償を受けるとか、少なくとも危険がなくなるようにすべきなのだ。新聞はどんな風にしてTVを見るか、書きたてました、ほこりをきれいにして、電源プラグを抜けるようにしておく、TVの上に天上の骨組みがこないような場所に置く、濡れたタオルを手にもつ。わが家ではどうやってテレビを見るか、お話ししよう、娘は公衆電話ボックスで右手に受話器、左手の人差し指をダイヤルのゼロに突っ込んで、火山が爆発したらそこからとび出せるよう、家のテラスを見つめる、私は電源プラグを持って、テレビを脇から見る、妻は番組を見られるよう、そして護れるようにと濡らしたタオルを両手でかかげる。

さて、今や工場側は新たな取説を作ると約束し、私に書いてくれと依頼してきました。で、書いてみました。

## カラー・スターTV 取り扱い説明書

敬愛するお客様！

熱い、とても熱い愛情と共にカラー・スターをお持ちのみなさまの大陣営からご挨拶いたします。

あなたは素晴らしい選択をなさいました！

この装置は「ほとんど万人の知るところ」という名の場所に乱入し、火事のように広がったのです

この装置に問題がいろいろ生じることはありません

取り付け、接続し、ちょっとだけ見て、その後は消防署に通報するのに出発なさるのもご自由です。

王城からモスクワ（広場）までいらっしゃてもかまいません （訳注 両方ともブダペストの交通機関の主要乗換え駅）

このことから当社の装置が輸出向け品質であることはおわかりでしょう

この製品は、ETA （自称「バスク祖国と自由」、他称テロリスト集団）、IRA （自称「アイルランド共和軍（定派）」、他称テロリスト集団） や赤軍 （訳注 旧ソ連邦陸軍、こんな訳注をつける日がこようとは！）

のみなさまにも繰り返しご注文いただき、ご愛用いただいております！

この装置の最大出力は40キロワット、消費電力は一日家一件です

この装置に貼ってある住所に返信なさる必要はありません

そのままにしておいて下さい！・・・爆発し、いずれ舞い戻ってきます！

それ以外に守るべき注意事項：

電流は危険なエネルギー源であることを知らなくてはなりません

このテレビを燃えやすい材質のものの上に置かないでください！

カーテン、家具、じゅうたん、お住まいから少なくとも50メートル離れたところに設置してください！

この装置は風通しのよいところに設置してください！

例えばベランダに！・・・そして窓越しに見てください！

それなら番組がつまらなくとも外にほうり出す必要はありません、つき落とせばよいだけのことです！

それでもなおTVをお部屋で坐って見ると決めたのでしたら、一人は生き残れるように、お互いから離れて坐ってください！

付属のテレビ事故防止セットには、幾つかの溶接用マスク、鑄造用ロープ、軽量アスベスト製ガウンが入っています

濡らしたカバーなしでTVを見ること禁止です！

スイッチを入れたら、テレビの隣にお座りください、そこから外にとび出すなら、

あなたがこの呪われた人生において障害年金の受給者になるなどということは決して起きないでしょうから！

そして最後に運転開始の順番は

コードのプラグを手にとり、コンセントに差し込んでください！

退避壕にとびこんでカウントダウンを始めてください！！

そんな風に注意事項を全て守ってくださったら、あなたのところにうかがいましょう、家から見守っています。